



彩の国
埼玉県

埼玉県の現状と地域包括ケアシステム について



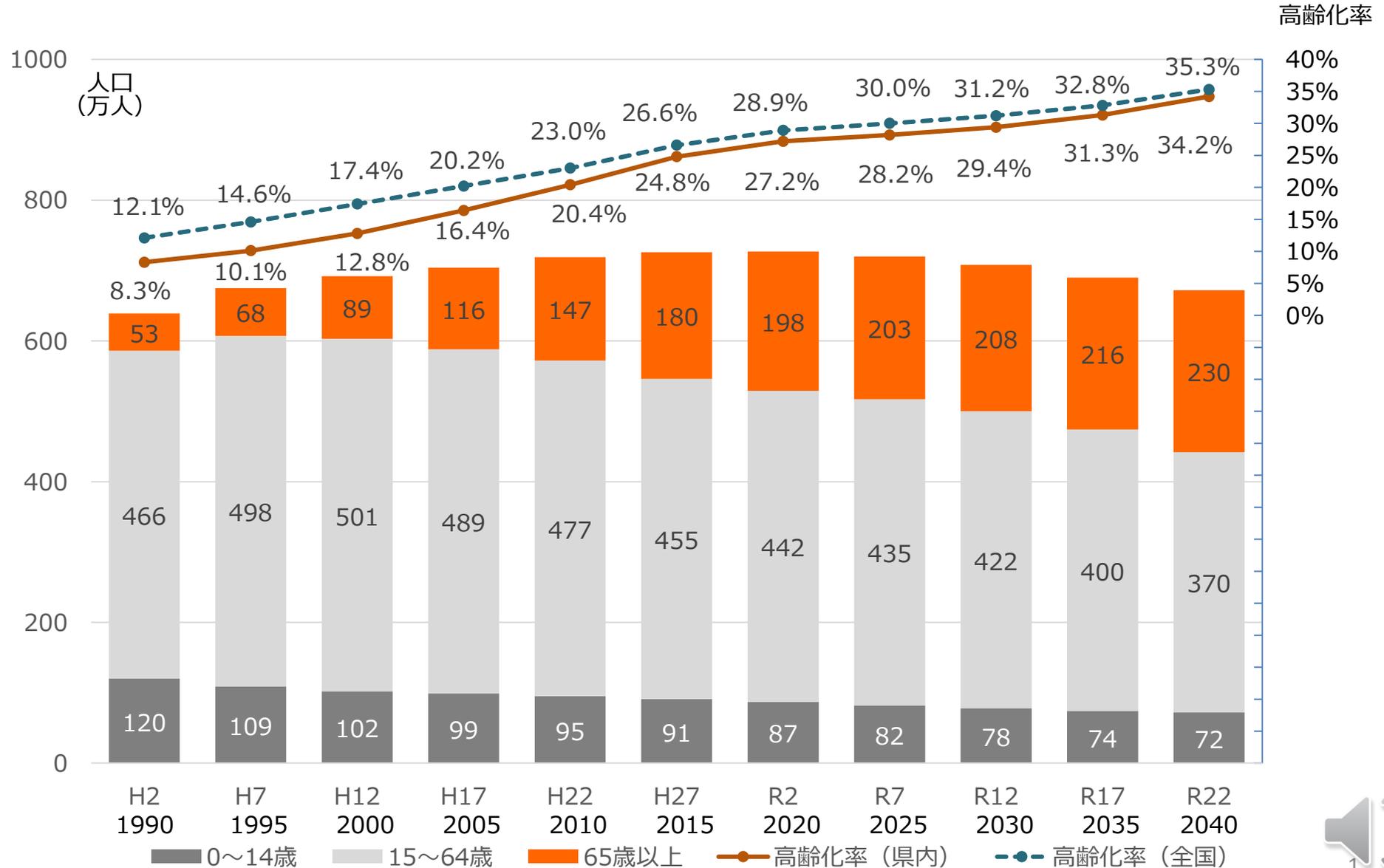
埼玉県のマスコット「コバトン」

令和6年度介護保険市町村等職員新規研修
埼玉県福祉部地域包括ケア課
地域包括ケア担当

048 - 830 - 3256

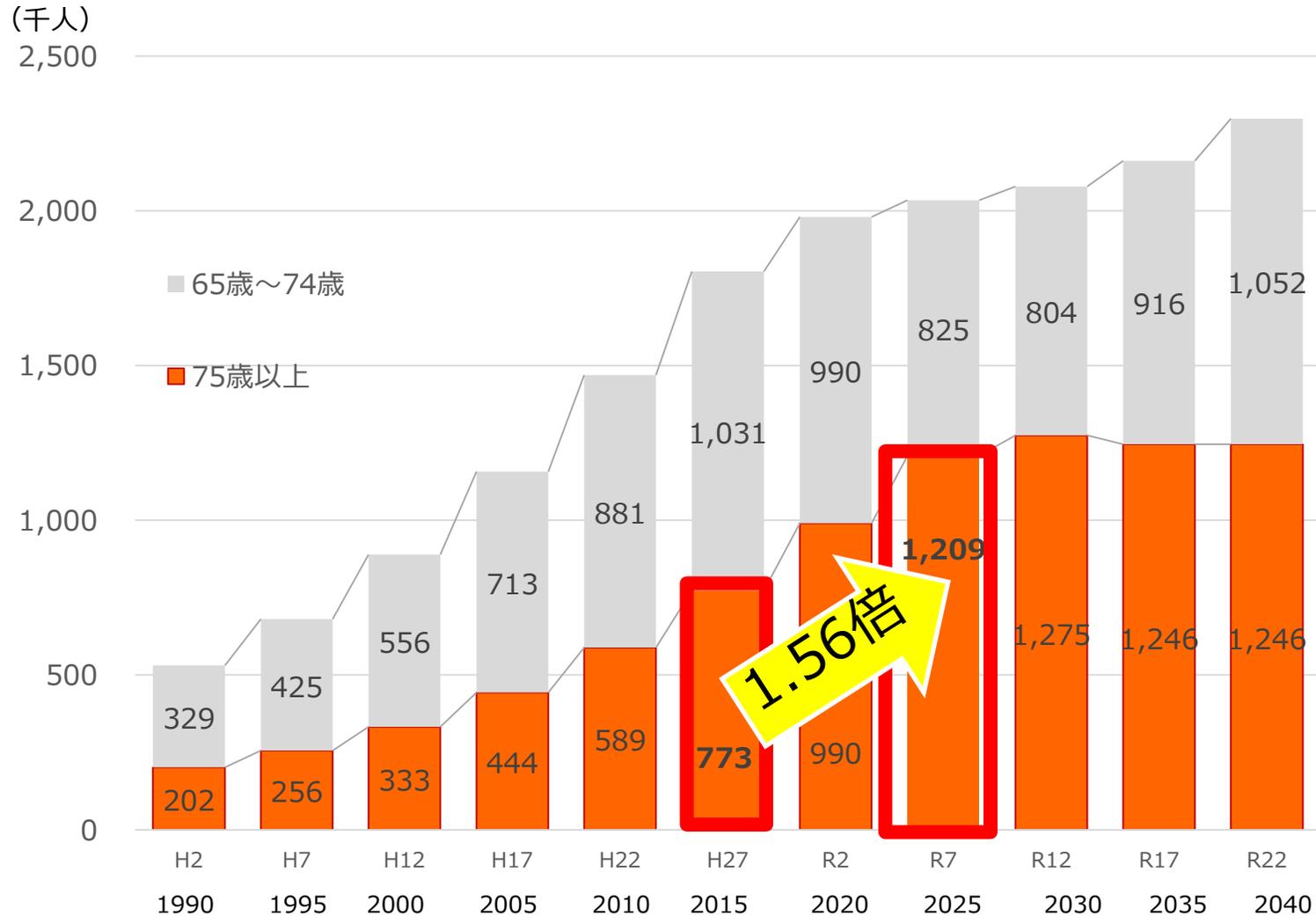
埼玉県の実況と地域包括ケアシステム

全国・埼玉県の高齢化率及び埼玉県の各年齢層別人口



埼玉県の現状と地域包括ケアシステム

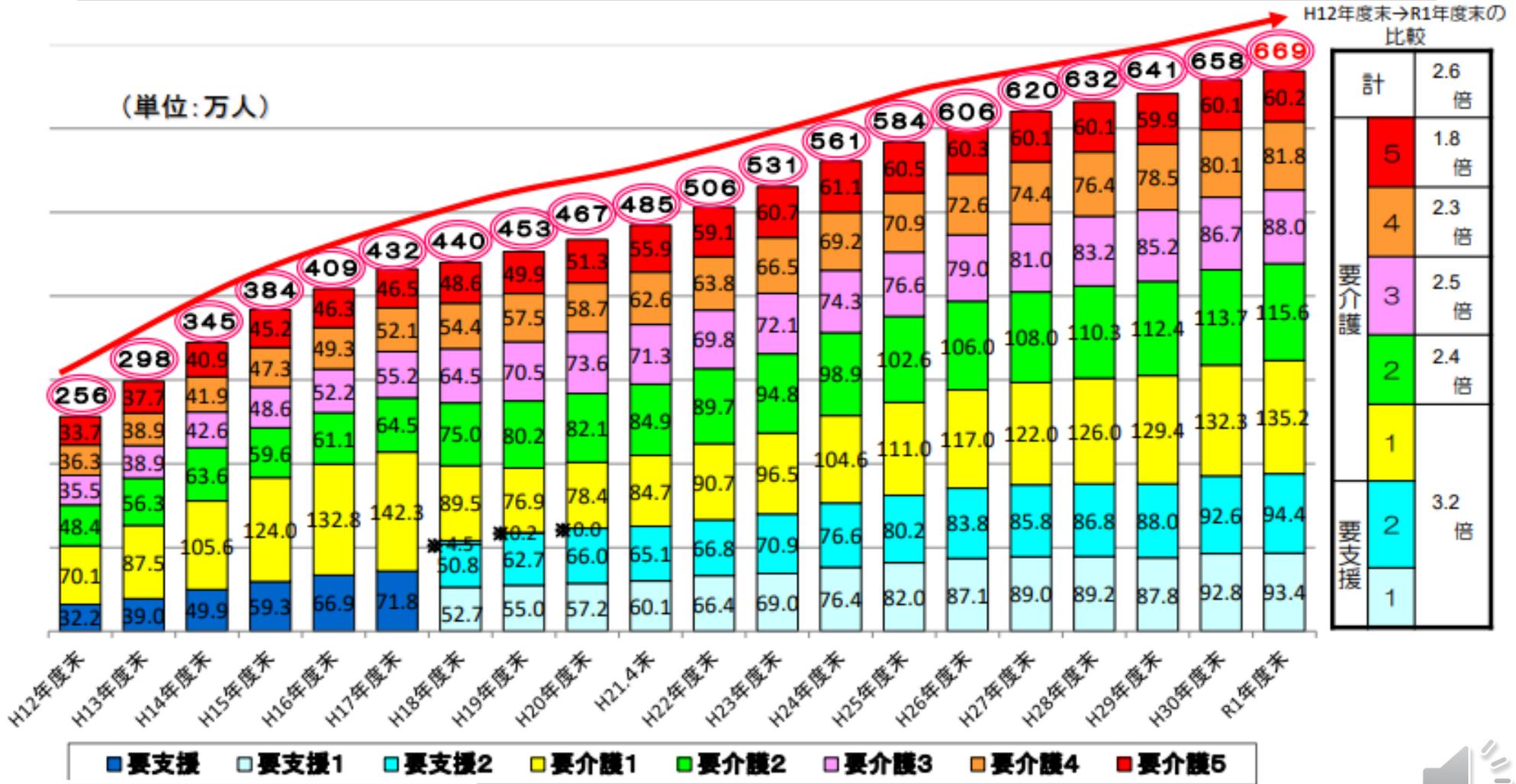
埼玉県の高齢者の内訳



埼玉県の現状と地域包括ケアシステム

要介護度別認定者数の推移

要介護(要支援)の認定者数は、令和元年度末現在669万人で、この20年間で約2.6倍に。このうち軽度の認定者数の増が大きい。



【出典】介護保険事業状況報告

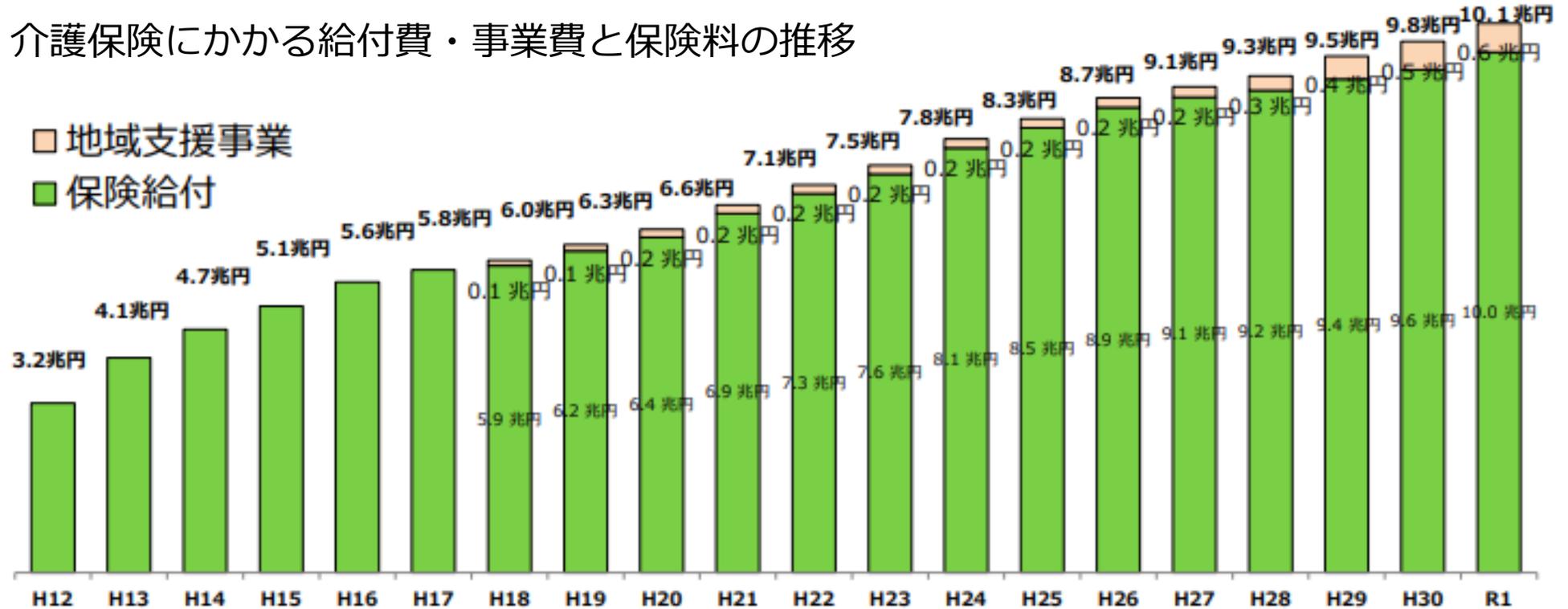
(※) 平成18年度末、平成19年度末、平成20年度末の※は、経過的要介護者の数

注) H22年度末の数値には、広野町、榑葉町、富岡町、川内村、双葉町、新町は含まれていない。



埼玉県の現状と地域包括ケアシステム

介護保険にかかる給付費・事業費と保険料の推移

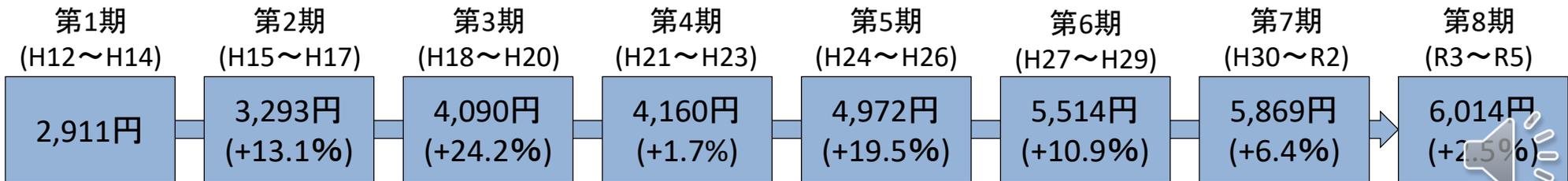


【出典】介護保険事業状況報告

※1 介護保険に係る事務コストや人件費などは含まない（地方交付税により措置されている）。

※2 保険給付及び地域支援事業の利用者負担は含まない。

〇65歳以上が支払う保険料[全国平均(月額・加重平均)]



【出典】令和4年3月24日 厚生労働省 老健局「介護保険制度をめぐる最近の動向について」

埼玉県の現状と地域包括ケアシステム

認知症の人数が増える

高齢者の約4人に1人が認知症の人又はその予備群。

平成24年（2012年）462万人（約7人に1人）→令和7年（2025年）約700万人（約5人に1人）

年	H24 (2012)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R22 (2040)	R32 (2050)	R42 (2060)
各年齢の認知症有病率が一定の場合の将来推計 人数/(率)	462 万人	517 万人 15.7%	602 万人 17.2%	675 万人 19.0%	744 万人 20.8%	802 万人 21.4%	797 万人 21.8%	850 万人 25.3%
各年齢の認知症有病率が上昇する場合の将来推計 人数/(率)		525 万人 16.0%	631 万人 18.0%	730 万人 20.6%	830 万人 23.2%	953 万人 25.4%	1016 万人 27.8%	1154 万人 34.3%

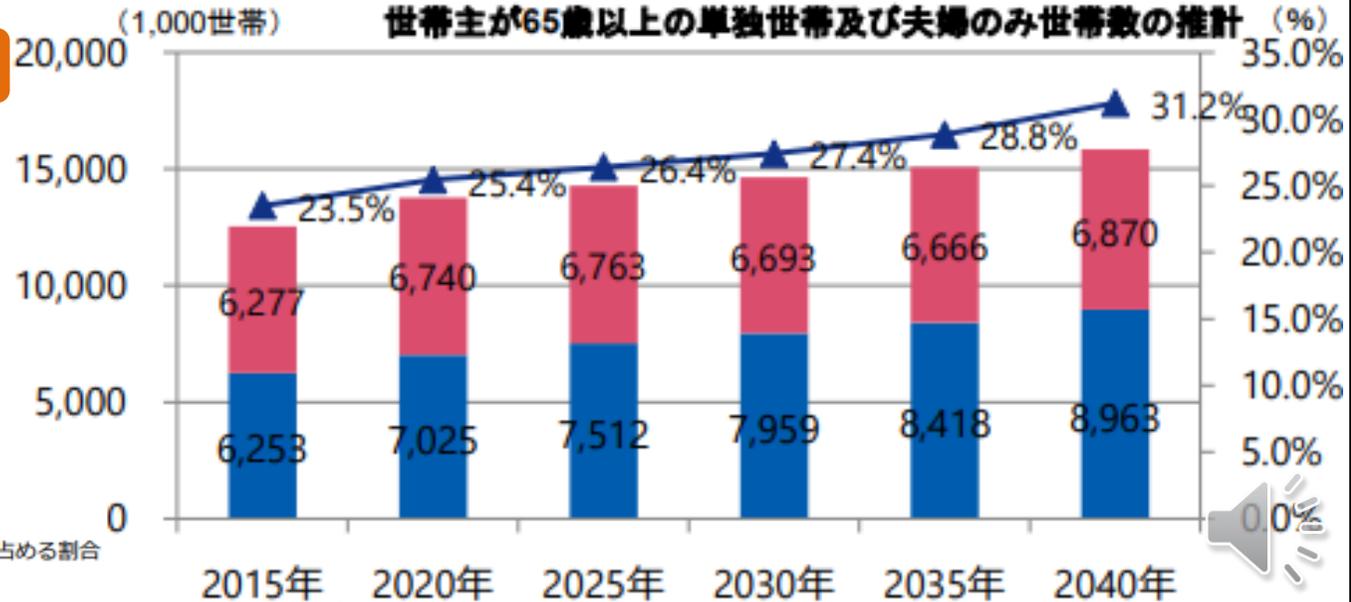
「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（九州大学 二宮教授）による速報値

高齢者のみの世帯が増える

世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯が増加していく

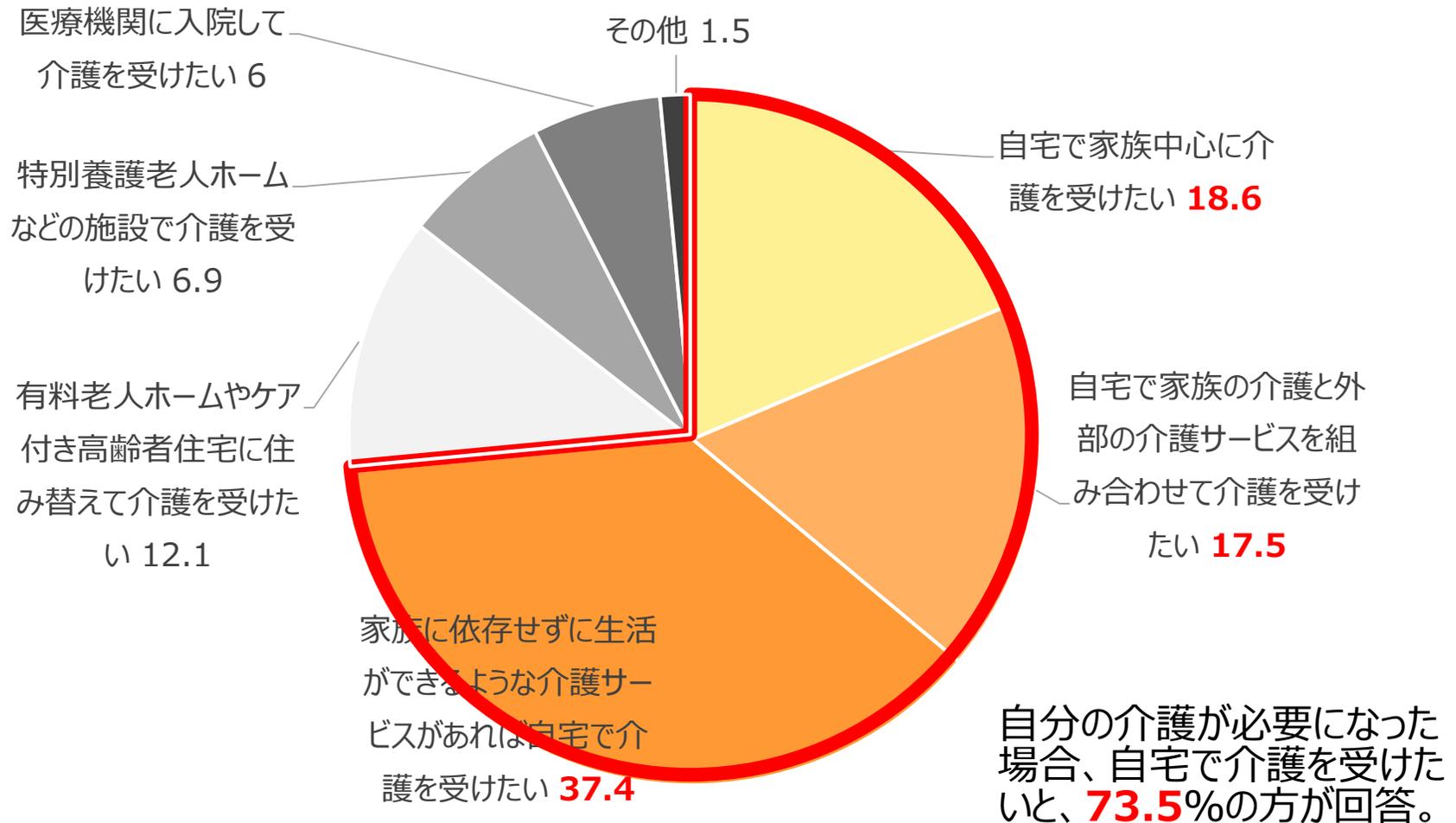
※国立社会保障・人口問題研究所
「日本の世帯数の将来推計（全国推計）
（平成30年1月推計）」より作成

- 世帯主65歳以上の夫婦のみの世帯
- 世帯主65歳以上の単独世帯
- ▲ 世帯主65歳以上の単独世帯と夫婦のみの世帯の世帯数全体に占める割合



埼玉県の現状と地域包括ケアシステム

どこでどのような介護を受けたいか



出典：厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「高齢社会に関する意識調査」（平成28年）

（注1）質問は、「自分の介護が必要になった場合にどこでどのような介護を受けたいですか。」

（注2）調査対象は、全国の40歳以上の男女。



- 高齢者が増える一方、働き手は減っていく
- 認知症、独り暮らし、介護保険軽度認定の高齢者が増えている
- 住み慣れた場所で暮らし続けたい、という高齢者のニーズがある
- 厳しい財政状況の中で、介護保険でこれまでと同様のサービスを提供し続けることは難しい

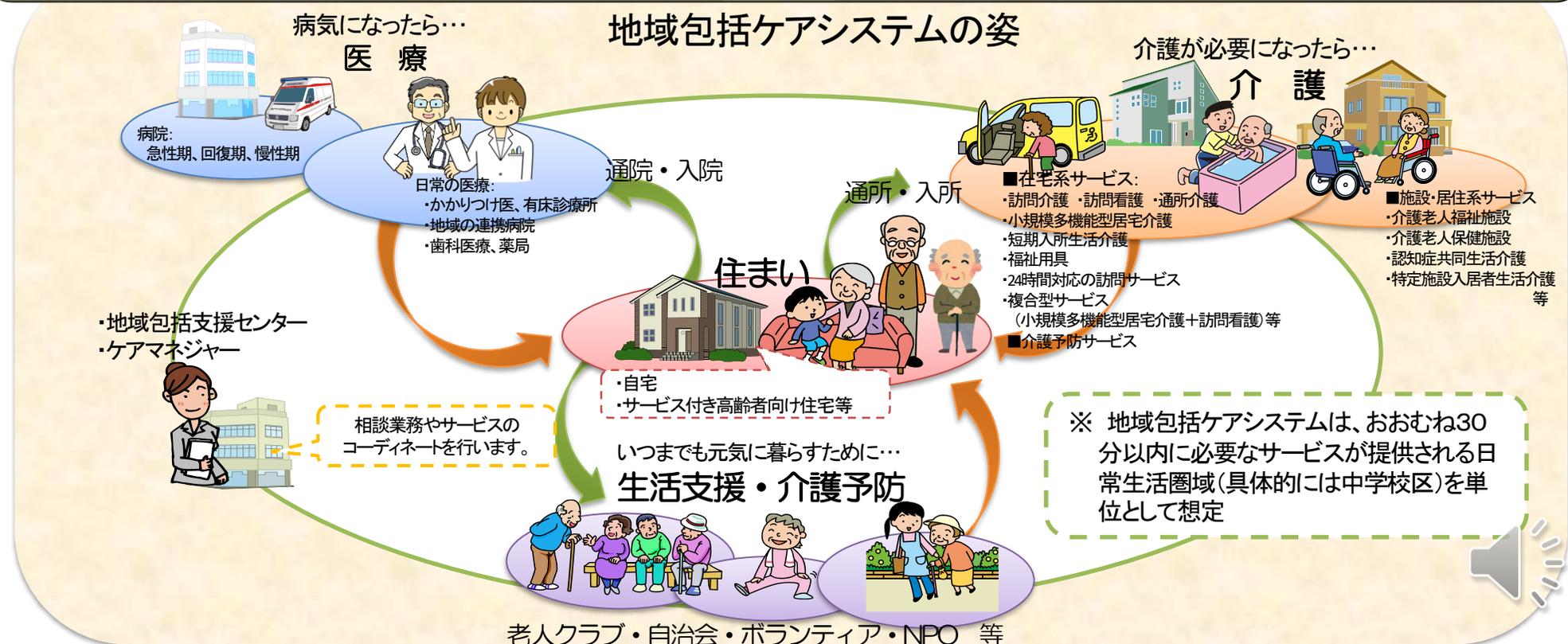
地域包括ケアシステムの構築

- ★ なるべく長く健康を維持できるようにする（介護予防）
- ★ 介護保険給付以外の社会資源を増やす（生活支援）
- ★ その他、在宅医を増やす（医療）、介護基盤の整備（介護）
在宅医療・介護の連携...



埼玉県の現状と地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



地域包括ケアシステムの構成要素



葉

介護需要の急増に備えるためには、「専門職によるサービス」を育てることが必要！

基盤がしっかりすることで、初めて「葉」が育つ。

土

1人ひとりの「介護予防」や介護保険制度外の市場サービスから近隣住民の支え合いも含む「生活支援」が充実しなければ、専門職は専門性が必要なサービスの提供に集中できない。

鉢

しっかりとした住まいがあるからこそ生活が成り立つ。

皿

地域の実情、状況の変化を知り、自ら選択し、心構えを持つこと。

埼玉県の現状と地域包括ケアシステム

市町村における地域包括ケアシステム構築のプロセス(概念図)

